

## 4根を有する Taurodontism 様の歯髓腔を示した 下顎第3大臼歯の一例

和田ゆかり, 内田啓一, 人見昌明, 深澤常克  
児玉健三, 長内 剛, 和田卓郎

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 和田卓郎 教授)

ヒトの歯の根数は歯種によってほぼ一定で, 下顎第3大臼歯では通常2根とされる。下顎大臼歯の過剰根については数多く報告がなされているが, 下顎第3大臼歯の過剰根の発現頻度は低く, 下顎第1大臼歯の過剰根の発現頻度が約20%であるのに対し, 下顎第3大臼歯では, 0.5%程度とされる。

一方, Taurodontism とは, 牛などの有蹄動物に見られる大きな歯髓腔を持つ歯のことで, ヒトでは, cement-enamel junction の消失, 冠部歯髓腔が歯根部にまで及ぶことによって, 歯冠と歯根との区別が不明瞭な歯の総称として用いられている。増田ら<sup>1)</sup>は, 約5000枚のデンタルX線写真から下顎大臼歯の Taurodontism が撮影されていたX線写真699枚を抽出した結果, 下顎第3大臼歯に130歯の Taurodontism が認められたと報告している。

今回著者らは, 過剰根で, 歯髓腔の状態が Taurodontism 様の歯髓腔と考えられる一例を経験したので報告する。

患者: 女性, 21歳

主訴: 右側下顎第3大臼歯部の疼痛

既往歴および家族歴: 特記事項なし。

現病歴: 1週間前より右側下顎第3大臼歯部に自発痛を認めたため, 平成8年5月29日に松本歯科大学病院第2口腔外科を受診した。

口腔外所見: 顔貌左右対称性で右側顎下リンパ節は大豆大で圧痛を認めた。

口腔内所見: 右側下顎第3大臼歯の頰側粘膜に軽

度な圧痛と発赤を認めた。

X線所見: 歯根膜腔の拡大は認められないが, 歯槽硬線は消失し, 歯冠部の遠心に半月状の陰影が認められる。頰側および舌側にそれぞれ遠心根, 近心根の2根が認められる。これらはいずれも隣在歯に比べて根が短く, 遠心根においては彎曲している。冠部歯髓腔が大きく, 髓床底は歯髓全長のほぼ中間に位置している (写真1)。

診断名: 智歯周囲炎

処置: 抜歯

尚, 抜去歯の形態は, 全長1.5 cm, 近遠心径1.0 cm, 頰舌径0.9 cm で, 歯根は4根で全てが頰側に彎曲していた。また, 歯冠が大きく全体の2/3を占めている (写真2, 3, 4)。

### 文 献

- 1) 増田哲夫, 南館忠義, 田中武史(1965) ヒト大臼歯歯髓腔形態のX線の所見, 特に大臼歯におけるいわゆる taurodontism について(抄). 口科誌, 14: 101.
- 2) 原田吉通, 野田道子, 山本 勉, 吉村和夫(1978) 両側の下顎第1・第2小臼歯に現れた taurodontism 様の歯髓腔を有する多根歯例. 九州歯学会誌, 32: 87-92.
- 3) 池島 厚, 堀越匡樹, 尾澤光久(1987) 過剰根(副根)の一症例. 歯放, 27: 487-488.
- 4) 原田吉通, 小川和久, 加治俊夫, 井本広磨, 秋山治夫(1980) 上顎第3大臼歯に現れた5根例. 九州歯学会誌, 34: 186-190.



写真 1 : 初診時デンタルX線写真



写真 3 : 抜去歯の偏遠心方向写真



写真 2 : 抜去歯の正放線方向デンタルX線写真

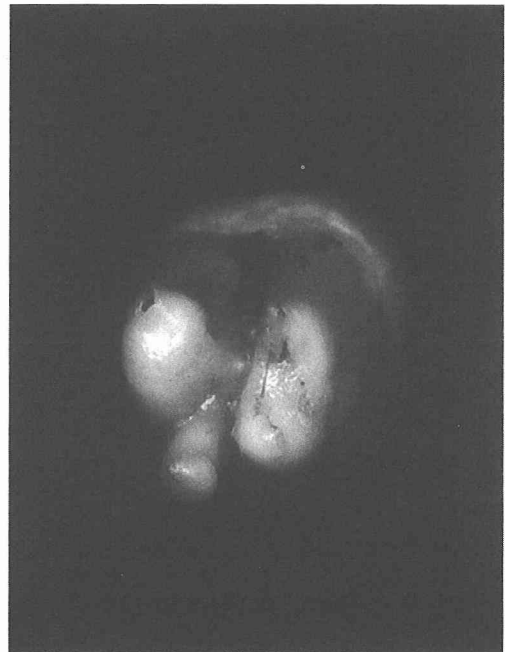


写真 4 : 抜去歯の歯軸方向写真